

令和 6 年度 学校評価書 ( 計画段階 )

福岡県立 糸島農業 高等学校

<p><b>スクール・ミッション</b> (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>「時代の変化に応じた農業教育を通して、福岡県の次世代の農業を支える人材を育成する学校」 安定した食料生産と環境の保全、地域資源の有効活用の観点から農業や地域社会を考える主体的な課題解決型学習 を通して、社会のリーダーとなって地域や農業の発展に貢献する人材を育成します。</p>	
<p><b>スクール・ポリシー</b> (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<p>○農業や関連産業に関する専門的な知識や技術を身に付け活躍できる力 ○主体的に考え、判断し、他者との協働により、地域農業に貢献できる力 ○諸課題を主体的・対話的に協働して解決する力</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<p>○福岡県、糸島市と連携したマーケット及びワークショップの実施による地域に開かれた教育課程 ○地域の専門機関と連携した実践的な授業による農業や農業関連産業のスペシャリストの育成 ○ワンヘルスに基づいた動物との共生社会の実現や地域資源の活用に関する教育活動</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<p>○農業や動物、地域の農産物や観光資源に興味があり、将来、関連産業への進路を考えている人 ○食や家庭生活の学習に興味があり、将来、関連の進路を考えている人 ○糸島の地域が好きで、地元地域について学び、将来、地域で活躍していくことを目指す人</p>

学校運営計画(4月)

<p>学校運営方針</p>	<p>生徒への適切な支援と指導を行い、生徒一人ひとりを大切にするとともに、学校集団としての連帯感を高め、コミュニケーション能力を高めることで社会性を育み、 心豊かな人間形成を目指し、従来の教育活動の点検・見直しを図ることにより質の高い教育活動を組織的・計画的に展開する。</p>		<p>評価 (総合)</p>
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	
<p>【成果】 ○授業におけるタブレット端末活用の充実 ○OSC・SSWなどの連携による生徒支援体制の充実 ○外部との連携による特色ある農業教育活動の充実 ○広報活動に係る研修の実施と広報活動の充実</p> <p>【課題】 ○新学科完成年度における教育内容・施設の充実 ○農業教育における外部連携および校内販売会を活用した教育内容の質の向上 ○国公立大学農学部合格への指導体制確立 ○生徒支援、人権・同和教育の更なる推進 ○InstagramやHP等による定期的な広報活動の充実</p>	<p>教育活動全体をとおして、鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばす教育を行う。 特に完成年度となる新学科の教育内容・施設の充実と広報に努める。</p>	<p>園芸技術科および動植物活用科の新3学年における教育課程の推進のため、教育内容・活動および施設設備 の充実を図る。また、生徒募集に向けて、広報課の年間広報計画のもと、HPはもちろんInstagramなどにより 不中断の広報活動を推進していく。</p>	
	<p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ることにより、確かな学力と実践 力の向上を目指す。一人一台タブレットの有効な活用をさらに推進する。</p>	<p>教務・情報・研修課により一人一台タブレットを有効活用した授業づくりの提案を行っていく。特に、農業教育に おいては、農場における一人一台タブレットの活用の実現に向けて、wi-fi環境のなどの設備の充実を図り、ス マート農業に対応した学習環境の整備を図る。</p>	
	<p>入学から卒業まで一貫したキャリア教育の充実を図り希望する進路を100%実現する。ま た、国公立大学農学部合格に向け進路指導部を中心に研究を進める。</p> <p>基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図るとともに、自律心と思いやりの ある心豊かな人間形成を目指す。</p>	<p>卒業後の実社会を見通した3年間のキャリア教育プランの作成と推進を図る。生徒の希望する進路(進学・就職) を実現するため、各学年に応じた段階的な意図的・計画的な進路指導を実施しながら100%の進路実現を目指 す。また、国公立大学農学部合格への具体的な校内指導体制を確立する。</p> <p>いじめの撲滅のためにいじめの未然防止やいじめの早期発見・対応に取り組む。学習支援が必要な生徒の視 点に配慮した学習環境の整備及び教育相談の充実を図る。また、全教科・全領域において人権教育を推進し、 道徳の実践力を高め、自尊感情や自立心・思いやりのある心の育成に努める。</p>	
	<p>農業職員(主幹教諭・教諭・実習助手)一人ひとりの農業教育力(知識・技術な ど)をレベルアップする。</p>	<p>R5年度に月1回の農産物販売会が実現し、全学科における販売実習の学びの場が確立した。本年度は販売 会を活用した学習内容(生産物など)の質の向上を図ることにより、実践的な知識・技術を教師自身が身につ け、指導内容のレベルアップにつなげる。</p>	

様式3

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の項目等	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の結果等
教 務	・統合型校務支援システムを利用した観点別評価の実施を確実に進めるように、各学年や各教科内の教員間の連携体制を確立し、教員の指導の改善と生徒自身の学習の振り返りができるようにする。	・各学期の期末調査最終日翌日に採点日(生徒自宅学習)をF28:L40設けて、観点別評価を正確に実施できるようにする。 ・授業アンケートを1学期に実施することで、2学期以降の生徒の学習改善と教師の授業改善につなげる。 ・授業アンケートの結果、主体的に学ぶ意欲をもって授業に参加する生徒を80%以上にする。	生徒への授業アンケート	
	・各学科および各コースの説明や魅力ある活動について、中学生や保護者に加えて地域の方々にも理解してもらえる場を設定することで、本校の教育活動の魅力を伝え、入学希望者を増加させる。	・体験入学への参加により、本校に興味を持った中学生の割合を95%以上にする。 ・糸農祭見学ツアーを中学生限定ではなく、保護者や地域の方まで対象にする。 ・中学校訪問を通して、中学生や保護者の本校に対するニーズを把握する。	参加中学生への体験入学実施後アンケート	
生徒指導	・基本的な生活習慣の確立を行う。生徒動態を意識し、指導・支援体制を充実させる。	・風紀委員会を活性化させ、PTA・職員・生徒が一体となる登校指導を年間3回行う。 ・生活・いじめアンケートに関する項目を見直し、きめ細やかな対応を検討する。 ・週に1回の生徒指導課会議にて、生徒に関わる情報共有を行う。	学校生活アンケート、いじめアンケート、保護者用いじめに関するチェックリスト	
	・体育祭、糸農祭などの行事で生徒が達成感や充実感を味わうことができるような行事の運営を行う。	・体育祭については、事前・事後のアンケートを見取り、安全・安心な運営を行う。 ・学校行事の活性化のために、生徒会の支援を行い、適切な周知に務める。 ・事前・事後のアンケートを行い、生徒の心身の状況を把握し、生徒理解に務める。	行事に関する事前・事後アンケート	
進路指導	・学年毎によって、進路意識高めさせるような進路行事を計画し実行する。	・進路指導課会議を行い、共通認識をもって進路行事を進める。 ・学年と連携をとりながら進路行事を進める。 ・進路説明会での保護者参加率を50%以上にする。	進路行事実施後の生徒へのアンケート	
	・キャリア教育の充実と生徒の希望進路を100%達成するために、支援体制を充実する。	・適性検査を実施し、進路探求の時間を増やすことにより、進路意識を高める。 ・学年と進路で連携し、生徒の進路の把握と支援の充実を図る。 ・国公立大学農学部進学希望者への早期把握と校内支援体制の確立を図る。	3年生保護者へのアンケート	
保 健	・ごみの回収を徹底する。	・ごみ回収当番を見直し、ごみ箱からゴミがあふれる状況を作らない。 ・ごみはきちんと分別する。 ・「整理整頓」「来た時よりも美しく」を心掛け日常の学校生活から校内美化に努める。	美化委員へのアンケート	
	・基本的な生活習慣を確立し、自分の身体的・心理的状況を説明できる生徒を育成する	・朝から体調不良で来室する生徒の個別の保健指導を行う。 ・保健室での様子を担任をはじめとする職員へ情報提供できる環境整備を行う。 ・来室した生徒に自分の状況を自分の言葉で話すことのできる質問や時間をつくる。	学校生活アンケート、保健室での生活振り返り調査	
企画庶務・情報	・ICT機器の有効活用を推進し、学校行事の円滑な運営をサポートする	・業務を効率化するために、ICT機器の有効的な活用について支援する。 ・生徒に「ICT活用の手引」の内容を周知させ、授業に適した使用を促していく。 ・行事計画を滞りなく作成し、提示する。他の部課と連携し、行事等が円滑に行われるようにサポートする。	ICT機器使用状況アンケート	
	・PTA活動の支援を行う。	・役員会、常任委員会の活動を支援する。 ・PTA総会や行事に関して、保護者への参加を促す。	PTA活動内容アンケート	
研 修	日常の職務遂行に寄与する内容の研修を効果的に提供し、職員の積極的な参加を促していく。	・研修の時期や時間、内容を厳選し、積極的に参加したいという素地を作っていく。 ・年度当初に計画された研修だけでなく、先生方のニーズに合った研修を柔軟に取り入れ実施していく。 ・校外研修に関しても必要な先生方に適切に紹介し、教育力の向上に寄与していく。	研修の満足度を調査するアンケート	
	次代を担う人材の育成のために、多面的に支援できる体制を構築していく。	・若年教員研修受講者の指導を丁寧に実施し、今後の教員生活の基礎を築けるよう支援していく。 ・教育実習生やインターンシップ生を積極的に受け入れ、農業高校の可能性の理解に繋げる。 ・校内の人材育成体制を整え、いつでも柔軟に対応できるような土台作りを実施する。	受講生や実習生に対する聞き取りアンケート	

様式3

広 報	・広報活動をより効率的に行うためのシステムを整える。	・年間計画表と月計画表を作成、および各学科や学年にも広報担当を置いてもらい、学校全体で広報活動ができるようにする。 ・素材となる写真フォルダを整理し、全員が保存・利用をしやすいようにする。 ・発信する内容に関する情報や原稿を収集しやすい環境を整える。	教職員からの広報課への要望についてのアンケート
	・ホームページやInstagramの投稿頻度を維持・向上させる。	・1学期の初めにホームページとInstagramの投稿に関する職員研修を実施する(情報課と)。 ・学科や学年に広報担当者を置き、それぞれの行事について投稿してもらう。 ・各学科の月1投稿は継続して実施する。	中学生への情報源に関するアンケート
農 務	学科の特色を明確化し、専門性を生かした魅力ある教育活動の遂行と発信を行う。	学科ロードマップを明確にし、農務全体で修正と改善を行う。 各学科の学習における専門機関との連携を強化する。 いとうマーケットや校外活動をPDCAサイクルに沿った改善を図る。	外部機関、マーケット利用者からの取り組みに関する評価とアンケート
	農業クラブ活動を充実させ、プロジェクトの推進に向けた組織体制を構築する。	クラブ員活動の学校内外における周知と広報を徹底する。 R11年度の全国大会に向けた各種競技の指導体制と方法を構築する。 各プロジェクトにおける産学官との連携を促進する。	生徒クラブ員、関連機関からの取り組みに関する評価とアンケート
人権・同和教育	人権・同和教育を推進するため、個別の人権課題を中心に、差別の現実を学ぶ。	・人権・同和教育・生徒支援委員会を毎月開催する。 ・校外研修等で得た新しい情報を共有する機会を充実する。	人権教育に関するアンケート
	本人の責任ではない理由で修学が困難な生徒を支援する。	・問題の種類に応じて、校外の専門機関との連携を深める。 ・先生に相談できる環境として時間や場所の確保をする。	相談窓口活用状況の把握と結果分析
第1学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成	・挨拶、身だしなみ、言葉遣いの指導を徹底する。 ・頭髪服装検査は生徒指導課と連携し、学年全体で指導する。 ・学校と家庭の状況について確実に保護者と情報共有しておく。	生活習慣に関するアンケート
	進路意識の育成と基礎学力の定着	・落ち着いた授業に臨めるよう、学習規律の徹底を図る。 ・授業内容の復習を中心とした課題を実施し、家庭での学習習慣を身に付けさせる。 ・進路選択に必要な情報や条件を周知させる。	家庭学習の状況に関するアンケート
第2学年	進路目標の設定と社会基礎力の育成	・遅刻防止、挨拶、身だしなみの強化月間を設定し、指導を徹底する。 ・インターンシップに向け希望進路を真剣に考える機会を1学期に2回はつくる。 ・HR等を活用し、スピーチコンテスト等生徒主体で進行・発言する機会をつくる。	インターンシップ後のアンケート
	基礎学力を向上させ、原級留置を0にする。	・自学ノートによる家庭学習の習慣づけを継続する。 ・認知機能強化トレーニングを月に1度は実施する。 ・コラムトレーニングに要約欄を設け、文章理解力の向上を図る。	基礎力診断テストの学習力チェックシート
第3学年	基礎学力の向上や社会の変化に対応できる考え方、能力を身に付けさせる。	・朝トレの時間を使って一般常識等の学習をさせる。 ・新聞から社会の変化を得ることが出来るようにさせるため、まず新聞記事に慣れさせる。 ・コミュニケーション力向上のため、5W1Hを意識させる。	自己点検のアンケート
	聞く力(聞き返さない力)・掲示物を見る力・得られた情報を基に自主的に行動する力を向上させる。	・指示や連絡は1度のみとし、聞き逃さないように集中して聞く習慣を付けさせる。 ・提出物の期限は絶対であることを徹底し、書類等の提出は期限前には提出する習慣を付けさせる。 ・集合などは時間に始められることを徹底する。	自己点検のアンケート
事務室	・適切な会計処理	・会計処理について、法令順守を徹底するとともに、節減による予算の効率的な執行を行う。 ・教育職員を含めた全職員一丸となり、不祥事防止に努める。	—
	・農場業務の充実	・技師(農業技術職員)の業務の充実と教育職員との連携により、更なる農場の管理・運営の充実を図る。 ・生産物販売における、厳密な法令順守の手続きを行うとともに不祥事防止に努める。	—